

背負式真空は種機・シードテープ利用による
雨よけほうれんそうの間引き作業の省力化（追補）

園試高冷地開発センター

1 背景とねらい

現在県内各地で雨よけほうれんそうの産地化に取り組んでいるところであるが、間引き作業の省力化は面積の拡大、安定生産を図る上で不可欠な課題となっている。

そのため昭和63年度に精度が高い背負式真空は種機、シードテープを利用した2粒まき及び1粒まきで大幅に間引き作業が省力できることが判り指導上の参考とした。

そこで今年度は、更に生産面で不安定であった1粒まきの安定化について検討した結果、成果が得られたので指導上の参考に供する。

2 技術の内容

1) 1粒まきの生産安定を図るには、は種間隔を5cm程度に設定する。これにより慣行のは種法で間引きしたものに較べ品質差もなく収量が安定する。

2) 真空は種機、シードテープ利用に加え、コート種子利用も有効である。

3) 適応地域 県下全域

3 指導上の留意事項

1) 1粒まきのは種機等の使用法

(1) 真空は種機のノズルは0.6mmφの1穴を使用する。

(2) シードテープは浸漬処理が可能な資材（メッシュロン）を使用する。

(3) コーティング種子のは種機は専用機（テンバル）を用い、ロールはほうれんそう用2Lとする。

2) 背負式真空は種機等による2粒まきの適用は、ハウスの移動等により初期生育の不揃いや、発芽むらの恐れが予想される圃場とする。

4 当該事項にかかる試験研究課題名

山村地域活性化のための技術開発（山野資源植生活用型）――山形村
雨よけほうれんそうの省力安定生産技術

5 参考文献

平成元年度山村地域活性化営農試験地設置事業成績報告書（未定稿）

6 試験結果の概要

表-1 生育・収量

(5/9まき, 6/9収穫)

試 験 区		草 丈 (cm)	葉 数 (枚)	葉 幅 (cm)	1 株 当 り (g)		1 m ² 当 り 収 量 (g)	収 量 比
					株 重	調 整 重		
手押し(慣)		19.9	8.3	5.7	12.1	11.2	1414	100
真 空	5cm	20.0	8.4	5.7	12.5	11.7	1652	116
	6.5cm	17.8	8.6	5.0	12.9	12.0	1219	86
	7.5cm	19.1	8.7	5.2	12.1	11.3	980	69
コ ー ト	5cm	20.8	7.7	5.4	11.1	10.4	1634	115
	6cm	19.9	8.3	5.3	13.1	12.3	1739	122
	* 7cm	16.6	8.5	4.7	9.2	8.5	884	62
シ ー ド	5cm	19.8	7.5	5.5	11.8	10.5	1650	116
	6.5cm	19.6	8.6	5.7	13.4	12.5	1370	96
	7.5cm	16.7	8.2	5.4	11.3	10.4	1155	81

*裸種子用ロールを使用したためは種性能が悪く生育収量が劣った。

慣行区は間引き作業を行い、試験区は間引きをしない数値である。

表-2 生育・収量

(7/12まき, 8/5収穫)

試 験 区		草 丈		葉数 (枚)	葉幅 (cm)	1株当り(g)		1㎡当り収量(g)		収量 比
		(cm)	c v			株重	調整重	総収量	上物率	
手押し(対)		16.5	21.6	6.3	4.6	7.5	5.2	975	65.1	100
真 空	5cm	18.1	14.7	7.5	5.9	12.1	8.8	1100	90.5	157
	6.5cm	16.8	18.4	7.6	5.5	11.4	8.5	992	88.2	138
	7.5cm	16.5	14.0	7.6	5.6	10.5	8.1	922	85.1	124
コ ー ト	5cm	19.4	13.9	7.5	5.7	11.1	8.2	1298	86.6	177
	6cm	19.3	16.8	7.4	5.3	11.2	8.2	1025	85.8	139
	7cm	19.1	16.4	7.6	5.6	11.8	8.7	942	82.5	122
シ ー ド	5cm	17.5	19.7	6.9	4.8	10.0	6.9	1121	79.8	141
	6.5cm	17.1	13.5	7.3	5.1	9.9	7.3	852	83.8	112
	7.5cm	16.7	14.3	7.5	4.9	10.5	7.5	844	93.6	124

*上物率: 1株当り調整重5g以上の収量比。

対照区